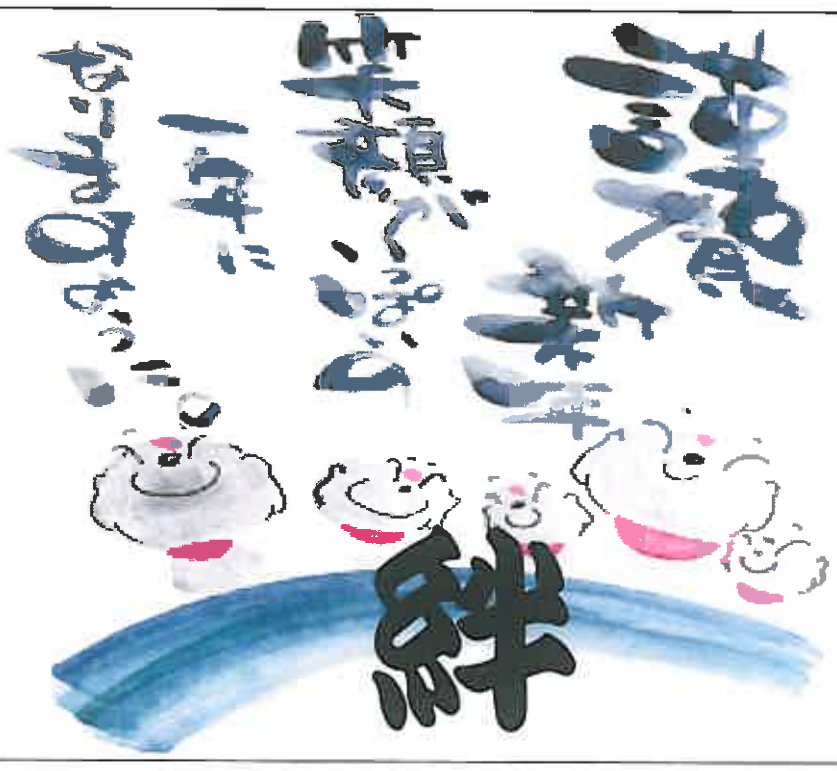
「やまぐちの木で家を造る会」
木楽里　会報誌
54号
H2401



新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様方には、平素からやまぐちの木で家を造る会の運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの尊い命が失われ、多数の皆さんが被災されました。

現在、復旧・復興に向けて懸命の努力が続けられており、私たちも必要な支援を続けなくてはなりません。こうした中、改めてクローズアップされたのが、近所や地域での支え合い、助け合いでした。震災を通して、人の温かさ、人と人との絆の大切さ、日本人の素晴らしさを実感した年でもありました。

しかし、以前、経済情勢におきましては、欧州の金融危機等の影響により世界経済が低迷する中で、日本経済も円高、デフレ、株安と厳しい情勢下に陥り、国内の産業の空洞化が懸念されています。林業・木材関係も厳しい状況は続くと予想されますが、先人が守り育ててきた森林や林業等の歴史・文化を守りつつ、次に続く取組を考えたいと思います。

本年も、更なるご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

やまぐちの木で家を造る会とは

地域産木材の需要拡大及び木材の地産地消を推進するためには、川上・川下関係者の連携化が必要であることから、山口農林事務所は検討会やセミナー等を実施し、関係者の連携化を支援した。その成果として、川上・川下関係者で構成する連携組織「やまぐちの木で家を造る会」の設立（平成十四年二月九日）となった。

★会の目的（理念）

・自然素材である木材を使用し、健康で快適な家づくりを目指す。

・自然素材としての木材を使用し、廃棄時にはオガコやチップ等への再利用可能な、ゴミをなるべく出さない家づくりを目指す。

・川上・川下関係者の連携により、木材価格の低迷で疲弊する山元へ資金を還元し、林業を持続的かつ健全に発展させるための家づくりを目指す。

・地域材を利用することによって、国土の保全や水資源のかん養、地球温暖化防止等様々な機能を有する緑豊かな森林を育て、都市に恵みをもたらす家づくりを目指す。

地元、やまぐちの木で家づくりを行います。

★会員の構成

▼製材業　木材を製材します。

森永製材

大林産業（株）

▼設計事務所　家の設計・監理をします。

（有）東建設計

（有）和建築設計事務所

垣村木材店　建築設計部

U・建築設計事務所

一級建築士事務所　マスダ設計室

▼工務店　家を建てます。

（株）金子工務店

（株）クマヤ組

（有）金子材木店

（株）村上組

▼林家、素材生産　木材を提供します。

片山林業

垣村木材店

戸田岸林業

山口県森林組合連合会

山口中央森林組合

二〇一二年は「国際協同組合年」
協同組合がよりよい社会を築きます

「国際協同組合年」とは・・・・・

二〇一二　国際協同組合年は、世界の抱える貧困、金融・経済危機、食料危機、気候変動などをはじめとする現代社会の重要課題の解決に向けて協同組合が大きな役割を果たすことを期待して、二〇〇九年12月の国連総会で決議しました。

ロゴについて・・・・・

7名は性別を特定せず、協同組合モデルの中心である人々と、協同組合の7つの原則を象徴しています。また、立法体は、協同組合の事業がめざす様々なゴール・志・成果を意味しています。

①自発的で開かれた組合員制
②組合員による民主的な管理
③組合財政への参加
④自主・自立
⑤教育・研修、広報
⑥協同組合間の協同
⑦地域社会への係わり

二〇一二国際協同組合年山口実行委員会が発足しました。

県内の各協同組合、協同組合の発展に期待を寄せる多様な個人が幅広く連携し、協同組合の価値や、協同組合が現代社会で果たしている役割等について、広く県民に認知され、協同組合をさらに発展させる取り組みを行うため「二〇一二　国際協同組合年山口実行委員会」が8月に発足しました。

実行委員会の代表は、熊本学園大学社会福祉学部小川全夫教授が選任されました。

実行委員会の中に幹事会、事務局会議が発足し、情報発信、イベント開催、協同組合の研究・調査等の検討を開始します。

最近、〇〇年が続いています。森林関係で言えば、昨年は、国際森林年の年でした。今年は、国際協同組合年。やまぐちの木で家を造る会も発足時、協同組合にしたらと言った話もあったようです。全国の・・・木で家を造る会の中には、協同組合として活動しているところもあると聞きます。当会も、十年が過ぎ今後色んな形を模索しながら、木材の利用促進等、木の循環について考えたいものです。

世界最大の木造建築物が完成
「メトロポール・パラソル」…？

世界最高の木造建築物である法隆寺を筆頭に、世界最大の木造建築物、東大寺大仏殿など、日本は木造の建物の多い国ですが、世界最大のものがスペインのセリビアに完成したようです。

二〇〇五年に着工し、二〇一一年の春についに完成したそうです。伝統ある古い街並みに、どーんと建てられた巨大な木造建築物。二〇〇三年に行なわれた広場再開発計画のコンペで勝利したドイツ人のユルゲン・マイヤー・Hによる設計。

敷地面積：18000平方メートル
建築面積：5000平方メートル
延床面積：12670平方メートル
階数　：4
建物の高さ：28.50メートル
総工費：9000万ユーロ（約105億円）

木の有機的な美しさが表現されています。

その名が示すとおり、下から見ると巨大なパラソルのような外観で、巨大でも圧迫感を感じさせない、自然と調和したデザインとなっているようです。

もともとは駐車場にする予定でしたが、ローマ時代の遺跡が発見されたことから地下には考古学博物館、地上階はショッピングセンターや多目的の広場となっていて、2階部分にはレストランやバーなどが設けられているそうです。屋上には展望台があり、美しい街並みを眺望できるようになっています。

新しい建物でも古い街の景観を損ねるどころか、見事に調和しているのが素晴らしいとのことで、ぜひ訪れてみたいと思わせる、木造建築の良さを存分に引き出した建物となっているようです。

やまぐちの木で家を造る会　事務局　山口中央森林組合内　山口市大内長野1978　TEL 083-941-0011　FAX083-941-0040　E-mail:yosaku@c-able.ne.jp